

■ 7 キャンパス等充実に関する事項

1 施設・設備・備品等について

本学における施設・設備・備品等は、長期財政計画と各キャンパスの立地条件を踏まえながら計画的に整備している。2012年度においても、第5次長期計画における新たな取り組みが円滑に遂行されるよう、次の視点に基づき整備をすすめる。

- ① 本学が展開する多様な教学活動を支え、その効果が十分あげられるよう整備する。
- ② 学術研究・諸科学の発達に十分対応し得るよう、計画的に整備する。
- ③ 学生の意見を聞きながら計画的に課外活動施設等を整備する。
- ④ 施設・設備等を地域社会に開放し、地域社会に貢献するキャンパス創りをめざす。
- ⑤ 大学構成員の意見を聞き、キャンパスアメニティの向上に努める。
- ⑥ 障がい者にとっても快適な環境を整備する。
- ⑦ 省エネルギーをはじめとする環境に優しい大学創りに努める。
- ⑧ 予期せぬ自然災害にも対応しうる施設を整備する。
- ⑨ 教学活動や学生生活を積極的に支援する立場から、施設・設備・備品等の管理責任体制を明確にし、適切な維持・管理に努める。

1 深草学舎における施設・設備・備品等の整備

● 深草学舎新棟の竣工

深草学舎新棟は、教育環境のさらなる充実、及び学生のキャンパスアメニティの充実に資する施設として2012年後期から使用を開始する。新棟は地上4階地下2階（延床面積約15,000㎡ 2012年7月末竣工予定）の建物であり、地下2階に学生食堂、地下1階から地上3階に講義室、地上4階に政策学部教員研究室及び大学院政策学研究科共同研究室を配置する。

● 衛生設備の充実

感染症予防対策として、各洗面所の自動水栓化およびハンドドライヤー設置を2009年度から4ヵ年計画で実施し衛生環境の向上に取り組んでいる。最終年度となる2012年度で、学内全ての洗面所の整備を完了する。

● 中央監視システムの整備

2012年度は深草南学舎・西学舎にBEMS（Building and Energy Management System）を導入する。これまで、2010年度に中央監視システムを更新、2011年度に深草北学舎の端末伝送装置の更新をおこなっており、今回、南学舎・西学舎のエネルギーの監視体制を構築することで、深草学舎におけるエネルギー管理の効率化を図り、省エネルギーのさらなる推進に努める。

● その他の施設整備

地下水ろ過システム用に自家発電機を設置する等、防災

機能を強化する。また、バリアフリー推進事業として、深草学舎3号館に自動扉を設置する。その他省エネ推進工事として、深草学舎5号館の、ガラス窓への遮熱フィルムの貼り付けや高効率照明への更新、サーバー室冷房設備の更新を実施する等、安全で快適な環境を整備する。

2 大宮学舎における施設・設備・備品等の整備

● 中央監視システムの整備

2012年度は大宮学舎にBEMS（Building and Energy Management System）を導入する。今回、大宮学舎のエネルギーの監視体制を構築することで、大宮学舎におけるエネルギー管理の効率化を図り、省エネルギーのさらなる推進に努める。

● その他の施設整備

バリアフリー推進事業として、文学部教務課玄関および西翼正面玄関に自動扉を設置する。また、老朽化の著しい北翼の空調設備を改修する等、安全で快適な環境を整備する。

3 瀬田学舎における施設・設備・備品等の整備

● 建物群の経年劣化対応改修工事

瀬田学舎1号館・青雲館・瑞光館及び基幹設備である中央監視装置・設備に係る、建物本体及び設備関係の劣化や機能低下等に対応するため、適切な修繕・更新工事を実施する。

● 食堂・喫茶厨房機器の整備＜最終年度：3年計画＞

瀬田学舎厚生施設（青雲館・青志館・RECホール）の食堂・喫茶厨房機器を更新し、厚生施設の充実を図る。

● 理工学部・理工学研究科の教育研究装置及び特別研究設備の整備

理工学部・理工学研究科の教育・研究に使用される「高機能先端材料創成のための微視的構造設計・特性評価システム（マイクロフォーカスX線CTシステム、微粉炭可視化装置）」を調達・整備する。

● 障がい者に配慮した外構整備＜1年目：3年計画＞

障がい者対応の一つとして、外構に設置している点字タイルを点字ブロックに再整備し、キャンパス内での安全な移動の手助けをおこなうとともに、インターロッキングの



不陸（凸凹）の調整をおこない、歩行障害や雨水等による水たまりの改善を図る。

2 情報システム関係について

2011年度にサービスを開始したコミュニケーションツール「Gmail」の関連サービスとして、2012年度には「Calendar」「Document」等の提供を開始する予定である。また、ほぼ全ての普通教室でマルチメディア設備が利用可能となるよう教育環境の整備を図るとともに、ポータルサイトやWebシラバス、Web履修登録等のWebサービスを提供しているシステムの更新によって、利用者（学生・教員等）へのサービス向上を図る。

加えて、これまで開発をおこなってきた基幹事務システムを順次稼働させ、サービスを開始する。この基幹事務システムの稼働と合わせ、事務系クライアントPC及び事務系ファイルサーバーの更新をおこない業務処理環境の刷新を図る。

1 総合的基盤整備

●クラウドサービス機能の利用

Google社が提供するGmailを導入し、2011年10月より学生向けメールシステムの提供を開始した。このGmailと組み合わせられている「Calendar」「Document」等のサービスの提供を2012年度より開始する予定である。これにより学生間の共同作業や情報共有が進展することを見込んでいる。

●事業継続のための災害復旧システムの構築

災害発生時、本学事業が継続できるように学籍情報、成績情報、人事情報、財務情報等の重要データの保管及び復旧手段を確保する仕組みの構築に取り掛かる。まずは重要データの遠隔地保管から着手する。

●事務系クライアントPC・ファイルサーバーのリプレイス

職員の業務遂行に不可欠となっている事務系クライアントPC及び事務系ファイルサーバーのリプレイスをおこなう。現行システムの長期利用による不便を一掃するとともに、業務環境の改善を図り、業務の効率化を支援する。

2 教育環境の整備

●普通教室のマルチメディア教育環境の改善

教室規模や仕様に合わせマルチメディア教育設備の整備をおこなう。本年度は小規模教室（収容定員90名以下）を重点対象とし、新たな機器を活用することにより、コンピューターを用いた多様な授業がおこなえるように機器を整備する。

3 事務システムの整備

●基幹事務システムリプレイス

2010年度より開発を進めてきた基幹事務システムについて、2011年度の法人系・研究系システムの稼働を経て、2012年度は教学系システムを稼働する。これまでの事務システムとしての機能だけではなく、Webサービスとの連携を強化することで学生自身が安全に活用できるデータ管理をおこなう。

●Webサービスシステムの更新

2007年度より実施してきた「Webサービスシステム」の更新をおこなう。引き続き、「（学生・教職員向け）ポータルサイト」や「Webシラバス」、「Web履修登録」などのサービスを提供し、利用者の利便性向上を図る。